

Title	自動車用燃料・潤滑油の品質規格に関する一考察 - 石油会社の差別化戦略への提言 -
Sub Title	
Author	菅隆(Suga, Takashi) 中村洋
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1999
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1999年度経営学 第1511号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001999-1511">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001999-1511</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	中村 研究会	学籍番号	89828417	氏名	菅 隆
(論文題名)					
自動車用燃料・潤滑油の品質規格に関する一考察 — 石油会社の差別化戦略への提言 —					
(内容の要旨)					
<p>石油製品の品質は、品質規格により維持されているが、その規格は公的に標準化されたものから、企業の社内規格といったものまで様々である。本研究では、品質規格の変更が石油業界に与えた影響を、製品差別化の効果という観点から調査・整理した。また品質規格の変更が企業にとって有効な差別化戦略をもたらす可能性がある場合、企業の品質規格に対する取組み、参加の可能性等について提言を行った。製品としては、標準化の状態が異なる3製品としてガソリン、エンジン油およびATF をとりあげた。ガソリンの規格は公的な標準化が進んでおり、エンジン油の規格は業界標準となっている。ATF に関しては、最近業界として統一規格制定に動き始めたところである。</p> <p>ガソリンについては近年バーター取引が盛んであり、品質による差別化は意味を無くしている。90年代前半のハイオク添加剤(MTBE)およびベンゼン含有量による製品差別化の効果を調査したところ、ほとんどシェアに影響していなかった。エンジン油の規格改訂による新製品投入は、消費者の交換サイクルが長いことなどから、販売シェアには結びついていない。更に発売時期自体が近年各社ともほぼ横並びになってきており、環境問題等に対処するための業界としての統一行動に変化しているようである。ATF については、新たな規格のもとで品質による差別化が有効になると予想される。新規格の方向性としては、AT の機構の違いにより従来タイプを含めて3種類程度の規格になると考えられるが、交換市場の中心は今後しばらくは従来タイプであろう。石油会社としては、新規格に自社規格を反映させるために、特許による技術の権利化や自動車会社との連携が重要になるであろう。また、ATF 規格制定・認証システムは日本主導で作るべきであり、石油業界としても非営利試験機関等のインフラ整備に協力すべきである。</p>					